●鉛直シアを持つ流れの中の対流

—どのようなモードが選択されるか？

Longitudinal mode or transverse mode? —

- ・不安定な成層を持ち一定の鉛直シアを持つ流れがある
厚さ h_* の流体の不安定性を調べる. (Kuo 1963, Asai 1970)
- ・微小振幅擾乱に関する支配方程式:

$$\bar{u}_* = \Lambda_* z_*, \quad b'_* = g_* \frac{\theta'_*}{\theta_{*0}}, \quad \frac{d\bar{b}_*}{dz_*} = -\frac{g_* \Delta\theta_*}{\theta_{*0} h_*}$$

無次元パラメーター

$$Ri = \frac{g_* \Delta \theta_*}{\theta_{*0} h_* \Lambda_*^2} \quad (\text{不安定を正と定義})$$

運動エネルギーK:

$$K' = \iiint \frac{1}{2} (u'^2 + v'^2 + w'^2) dx dy dz,$$

$$\frac{dK'}{dt} = \underbrace{\iiint (-u'w') dx dy dz}_{K \Leftrightarrow K'} + \underbrace{\iiint (Rib'w') dx dy dz}_{P \rightarrow K'}.$$

- $P \rightarrow K'$ (位置エネルギーから擾乱の運動エネルギーへの転換)は正
- $K \Leftrightarrow K'$ (平均運動エネルギーから擾乱の運動エネルギーへの変換)は正か負か今のところ不明。これを決める。

○ Longitudinal mode: y 方向にモードを持つ

・ K' の時間変化に寄与する二つの項は両方とも正.

詳しくは23参照。

○ Transverse mode: x方向にモードを持つ

・セルはシアのある方向に傾く.

・ K' の時間変化に寄与する二つの項のうち、
第2項は正であるが、第1項は負となる。(詳しくは24)
→ 成長率がLモードに比べて小さくなる.

鉛直シア流があると、シア流方向のロール解(Lモード)が
卓越する

冬季日本海における野外観測

WMO: Winter MCSs Observations
2001年,2002年,2003年

WMO-01のスナップ写真

着氷した高風丸

日本海側の豪雪

ドップラーレーダー
(上越)

境界層レーダー崩壊前

崩壊後

上越における高層観測

2001年1月14日における衛星画像, QuikSCATによる海上風, レーダーアメダス解析雨量の水平分布

JPCZ
日本海
寒帯気団
収束帯

JPCZと雲列 (Tモード雲, Lモード雲)

- ・ 寒気の吹き出し
- ・ JPCZでは強い収束と水平シア

日本海側と太平洋側で天気が異なる →

航空機によるJPCZの観測 (1月14日) 村上ほか

←→ 背の高い雲がある

航空機観測から得られたJPCZの概念図

- ・ 水平収束をつくる2つの気団のうち南西側が温暖であった。
- ・ Tモード雲の上層は帯状雲の南西縁の対流雲から吹き出した層状性の雲。ただしTモード雲の下層は対流的であった。

2001年1月14日の事例 1km-NHMによる再現実験

2001年1月14日15JST

0.0 0.1 0.2 0.3 0.4 (Albedo)

0.02 0.1 0.5 1.0 1.5

- 1km-NHMはJPCZをもっともらしく再現した.
- 周辺の雲列ももっともらしく再現した.

鉛直流

1km-NHM: 5 hour forecast (15JST 14 JAN.)

- 強い上昇流のラインはJPCZの南西端に対応した.
- 筋状の対流域がLモード雲域にあった.
- 同様の筋状の対流域がTモード雲域にも見つかった.
- Tモード雲域の筋状の対流は鉛直シアの方向に平行であった.

詳細な構造

1km-NHM: 5 hour forecast (15JST 14 JAN. 2001)

- JPCZは高度1km以下の西北西風と北北東風の間で形成された。
- 鉛直流で見ると、Tモード雲は対流性であった。(風の場合に注目)
- JPCZの南西側の気団がより暖かかった。
- 対流混合層の厚さは南西側が高かった。

実況

(a) **GMS-5 visible 15JST 14 January 2001**

Total condensed water

5hour 0min
(Valid:14.1500JST)

観測 温位・相当温位

再現実験 温位・相当温位

観測 水平風

再現実験 水平風

(a) Vertical velocity ($z^* = 615\text{m}$) 5hour 0min
(Valid:14.1500JST) (b) Total condensed water 5hour 0min
(Valid:14.1500JST)

(a) x-averaged v (m/s) (b) x-averaged $v'w'$ (m^2/s^2)

2001.1.14 航空機観測

Tモード雲は風の鉛直シアに平行な対流モード！

2000.12.26 ドップラー レーダー観測 (清水ほか,2003)

絶対不安定成層における対流のまとめ

- ・対流の縦横比はオーダー1
- ・（ふたありの場合） Ra の増加と共に、粘性解→定常2次元ロール解→定常3次元解→乱流、へと発展する。
- ・対流パターンは鉛直方向のひずみによる
 - 二次元ロール解は上下に対称の場合、
 - 六角形セル解は上下に非対称の場合に起こる。
- ・鉛直シア流があると、エネルギーの流れから、風の方向に沿う走向の二次元ロール解が実現する。

$$\frac{\partial u'_*}{\partial t_*} = -\bar{u}_* \frac{\partial u'_*}{\partial x_*} - w'_* \frac{d\bar{u}_*}{dz_*} - \frac{1}{\rho_{*0}} \frac{\partial p'_*}{\partial x_*}, \quad (1)^*$$

$$\frac{\partial v'_*}{\partial t_*} = -\bar{u}_* \frac{\partial v'_*}{\partial x_*} - \frac{1}{\rho_{*0}} \frac{\partial p'_*}{\partial y_*}, \quad (2)^*$$

$$\frac{\partial w'_*}{\partial t_*} = -\bar{u}_* \frac{\partial w'_*}{\partial x_*} - \frac{1}{\rho_{*0}} \frac{\partial p'_*}{\partial z_*} + b'_*, \quad (3)^*$$

$$\frac{\partial u'_*}{\partial x_*} + \frac{\partial v'_*}{\partial y_*} + \frac{\partial w'_*}{\partial z_*} = 0, \quad (4)^*$$

$$\frac{\partial b'_*}{\partial t_*} = -\bar{u}_* \frac{\partial b'_*}{\partial x_*} - w'_* \frac{d\bar{b}_*}{dz_*}. \quad (5)^*$$

$$\bar{u}_* = \Lambda_* z_*, \quad b'_* = g_* \frac{\theta'_*}{\theta_{*0}}, \quad \frac{d\bar{b}_*}{dz_*} = -\frac{g_* \Delta \theta_*}{\theta_{*0} h_*}$$

無次元化

$$\frac{\partial u'}{\partial t} = -z \frac{\partial u'}{\partial x} - w' - \frac{\partial p'}{\partial x}, \quad (1)$$

$$\frac{\partial v'}{\partial t} = -z \frac{\partial v'}{\partial x} - \frac{\partial p'}{\partial y}, \quad (2)$$

$$\frac{\partial w'}{\partial t} = -z \frac{\partial w'}{\partial x} - \frac{\partial p'}{\partial z} + Rib', \quad (3)$$

$$\frac{\partial u'}{\partial x} + \frac{\partial v'}{\partial y} + \frac{\partial w'}{\partial z} = 0, \quad (4)$$

$$\frac{\partial b'}{\partial t} = -z \frac{\partial b'}{\partial x} + w'. \quad (5)$$

●鉛直シアを持つ流れの中の対流

—どのようなモードが選択されるか？

Longitudinal mode or transverse mode?—

・不安定な成層を持ち一定の鉛直シアを持つ流れがある
厚さ h_* の流体の不安定性を調べる。(Kuo 1963, Asai 1970)

・微小振幅擾乱に関する支配方程式：

○ Longitudinal mode: y方向にモードを持つ

$$\frac{\partial u'}{\partial t} = -w', \quad (1)'$$

$$\frac{\partial v'}{\partial t} = -\frac{\partial p'}{\partial y}, \quad (2)'$$

$$\frac{\partial w'}{\partial t} = -\frac{\partial p'}{\partial z} + Rib', \quad (3)'$$

$$\frac{\partial v'}{\partial y} + \frac{\partial w'}{\partial z} = 0, \quad (4)'$$

$$\frac{\partial b'}{\partial t} = w'. \quad (5)'$$

- (2)' ~ (5)' で閉じた系 → 2次元Rayleigh対流
- (1)' は鉛直流による基本流の移流 →

$$\overline{u'w'} < 0$$

•K' の時間変化に寄与する二つの項は両方とも正.

○ Transverse mode: x方向にモードを持つ

$$\frac{\partial u'}{\partial t} = -z \frac{\partial u'}{\partial x} - w' - \frac{\partial p'}{\partial x}, \quad (1)''$$

$$\frac{\partial w'}{\partial t} = -z \frac{\partial w'}{\partial x} - \frac{\partial p'}{\partial z} + Rib', \quad (3)''$$

$$\frac{\partial u'}{\partial x} + \frac{\partial w'}{\partial z} = 0, \quad (4)''$$

$$\frac{\partial b'}{\partial t} = -z \frac{\partial b'}{\partial x} + w'. \quad (5)''$$

・(1)からu' とw' の相関を想像することは難しいが、直感的にセルはシアのある方向に傾くと思うべし。

→
$$\overline{u'w'} > 0$$

・K' の時間変化に寄与する二つの項のうち、第2項は正であるが、第1項は負となる。
→ 成長率がLモードに比べて小さくなる。

鉛直シア流があると、シア流方向のロール解(Lモード)が卓越する